

“你好”考

鱒 澤 彰 夫

1. はじめに

挨拶は、人と人との接觸の第一歩であり、人間生活の基本である。それゆえ、「挨拶も出来ぬ馬鹿」という人物評が、職業、官位を超えて厳然と成立しているのである。そして、挨拶語を伴う日常の挨拶は、人間関係を圓滑に保つ、必要且つ重要な言語活動である。

日本語において、「こんにちは」という挨拶語は、一般的な挨拶語として定着している。そして、“你好”という挨拶語は、現在、知らぬ者はない中國語の代表となっている。とはいえ、1983年に筆者が留學したとき、挨拶語といえば「喫飯了嗎」や「上哪兒去」で¹⁾、意外にも“你好”を余り聞くことがなかった。また、現在70才を超えた中國語研究者によれば、“你好”は“北京語”ではなく、新しい言葉だ、とも聴く。しかし、21世紀に入り、中國に暮らす経験を持たぬにせよ、「喫飯了嗎」や「上哪兒去」の使われる頻度が減り、“你好”が年々廣く使われつつあると筆者は感じている。それは、自然な世代交代というより、改革開放政策の進展により、人の移動が法的にも現實的にも自由になり、人と人との関係が、村の中や街の中の関係から他の地域の人々との関係に擴大し、これが“你好”の使用頻度に反映したものであると見ている。

本稿は、“你好”が日本の中國語テキストに、いつ登場し、いつ定着したか、を考察したものである。

I

“您好”を“你好”のバリエーションと假定すれば、“您好”の日本のテキストにおける初出は、予想外に早く、文楨²⁾『北京官話北京游歴記 初篇』(大正3年4月15日初版文楨刊文求堂發賣)のようである。

それは、(引用者により適宜、／で發言者を分けた。以下、同じ。)

您好久違、這是打那兒來。(p1)

您是程先生的少爺不是。／是、您是吳先生、您好。／好、請坐。(p15)

您好、我這幾天有點兒事、沒得來、聽說您同人看戲去了、好不好。／可不是、(p34)

というものである。

しかし、この「您好」は、日本のテキストに再び登場することは暫く無かった。そこで、少し視点を變えて、「您好啊」を見ることにする。というのは、長谷川寛『中國語會話』(1960年9月25日第1刷1972年6月20日第16刷白水社發行)によれば、「「您好啊！」の「《啊》を略して 您好！」(p39)とあるからである。

「您好啊」は、吳啓太・鄭永邦『官話指南』(明治15年11月初版楊龍太郎刊)第二卷「官商吐屬篇第十章」³⁾が日本のテキストにおける初出である⁴⁾。それは、老爺您好啊／好啊、您好啊／好啊您哪 (下線は引用者による)である。

この「您好啊／好啊您哪」は、宮島大八『官話急就篇』(明治37年8月28日初版大正10年3月1日69版善隣書院刊)問答之上(80)(p33)⁵⁾にも登場する。『官話急就篇』は、文法と體系を重んじる現在の教學方法から見ると大變遅れているのは確かであるが、庶民の日常の言葉を反映している點では好著で、初級テキストの代表として普及した。また、『官話指南』も、1945年までの中級テキストのバイブル的存在であった。そして、大正期には、ともに支那語檢定試験の基準テキストとなっていた。それゆえ、『官話指南』と『官話急就篇』に採られた「您好啊／好啊您哪」は、挨拶語の一つの定式として、その後の日本のテキストに廣く採用されている⁶⁾。

なお、「您好啊／好啊您哪」の解説を見ると、例えば、大橋末彦『官話急就篇詳譯』(大正6年10月1日初版大正6年12月1日3版文英堂書店刊)、飯河道雄述「官話急就篇講話」(『支那語速成講座 分科合本』昭和3年2月2日初版昭和6年9月20日5版東方文化會刊所收)や、鈴木擇郎『標準支那語教本初級編教授用參考書』(昭和12年5月22日東亞同文書院支那研究部刊)にも、「您好啊」は「《啊》を略して您好」という説明はない。これは、筆者たちが「您好」を耳にしなかったか、或いは、耳にしても留意するに及ばぬものと判

斷した結果であろう。

日本以外の中國語テキストを見ると、單獨で使われる“您好”は、Imbaut-Huart『Manuel Pratique de la Langue Chinoise Parlée Á L'usage des Français』第2版（1892年刊）が初出であろう。但し、“這一向您好”の形では、同じ著者による『京話指南』vol.1-4（1888-1889年刊）のvol.2（1888年刊）が初出ということになる。

Imbaut-Huartの著書3點⁷⁾——1、『Manuel Pratique de la Langue Chinoise Parlée Á L'usage des Français』第1版1885年刊）、2、『京話指南』1888-1889年刊、3、『Manuel Pratique de la Langue Chinoise Parlée Á L'usage des Français』第2版1892年刊——における“您好”の關係箇所を刊行順に並べ、それを表にすると、

1885年刊第1版	1888年刊『京話指南』	1892年刊第2版
1 好	1 好	1 好
2 閣下好	2 閣下好	2 您好
3 您好啊	3 您好啊	3 閣下好
4 大人好	4 大人好	4 大人好
5 託福 (p35)	5 託福	5 託福。託福 (p130)
	6 這一向您好	
	7 您這一向好	
	8 託福。託福 (vol.2 p73)	

となる。

しかし、“您好”は上の例以外には見当たらず、以下の如く“您好啊”が使われている。

1885年刊第1版	1888年刊『京話指南』	1892年刊第2版
3 這一向您好啊	3 這一向倒好啊	3 這一向您好啊
4 好啊您納。您倒好	4 好啊。您納倒好	4 好啊。您倒好
5 託福。託福 (p.p.47-48)	5 託福。託福 (vol.2 p208)	5 託福。託福 (p.p.160-161)
	老爺您好啊／你的買賣好啊 (vol.3. p208)	

これを見ると、1890 年前後が“您好”の出現の節目であったと推測できるが、“您好”が多く使われているという状況にはなかったようである。というのは、國立國會圖書館支部東洋文庫所蔵の 1910 年までの中國語テキストをアトランダムに調べてみると、1903 年刊 Vaudesca『Etude élémentaire de la langue chinoise』13E Dialogue に「1 錢老爺好啊 2 好 老爺好 3 好好」、1909 年刊 Brandt『華言初階』に「老爺您好啊 2 好啊 你的事情好啊」(p305) とあるように⁸⁾、“您好啊”の用例も少なく、“您好”、“你好”は見られないからである。

II

中國の國語の教科書では、管見に據れば、1933 年の教育部審定の小學校「國語」教科書に“你好”が初登場する⁹⁾。それは、朱文叔等編孫世慶等校『小學國語讀本』初級第二冊(民國 22 年 10 月 9 日教育部審定民國 26 年 5 月 288 版上海中華書局刊)冒頭の課文「學校門口」の末尾(p1)に置かれている、

看見先生 我一鞠躬 說道『多日不見了 先生 你好』(空格は原文のまま)である。

この課文には室内で生徒が先生にお辭儀をする挿繪がある。先生に對して“您好”ではなく、“你好”と語りかけている點に、新しい人間關係を表すものとして“你”を“您”と同等に扱う中華民國の“平等”の意志を見て取れる¹⁰⁾。そして何よりも、“您好啊”ではなく“你好”が教科書に採られたことは、“你好”が挨拶語として公認されたことを示すものである。

“你好”が採用された 1933 年前後を調べてみると、

J.R.Raty・秀毓生・金叔延『適用新中華語 Current Chinese or Shih Yung Hsin Chung Hua Yu』I (1927 年 Shanghai Kelly and Walsh, LTD 刊)には、

黃先生，您好？／好哇・您好？(p 4)

您好哇？這是從那兒來呀／好啊・從鄉下來。(p24)

這一向好哇？／少見。您好？(p96)

這一向好哇？／好啊！您好哇？(p153)

啊，您好哇？／今天早晨忙不忙？／好哇・今天不算很忙。(p161)

の例があり、

J.M.McHugh・周克允『華語新徑 Introductory Mandarin Lessons』
(1931年 Shanghai Kelly & Walsh, LTD 刊) にも、

您好 How are you? (Here 好您哪 may also be used と注する)

好 您好 Well, thank you. How are you? (p.p.3-5)

您好?/好 您好? How are you?/Fine, how are you? (p.p.174-175)

您好?您是村正麼/是 (p229) How are you? Are you the head man of this village./Yes. (p234)

の例がある。

これらのことから、日本のテキストには採用されなかったが、1930 年前後には“您好啊”（“你好啊”）と“您好”（“你好”）とが並行しており、教育部により“你好”の使用が推奨されたものと推測できる。

“您好”は、1940 年には、北京で刊行された日本人著者によるテキストにも現れる。それは、日野成美『正則日本語講座 第二巻 初等會話篇』（中華民國 29 年 2 月 29 日初版中華民國 30 年 10 月 15 日 10 版新民印書館刊）である。そこには、次の如く、「今日は」を「您好!」と譯している¹¹⁾。「文具店で」(p47)¹²⁾では、

子 おちさん 今日は。 大叔!您好!

主人 やあ、いらっしゃい。 呀!您來啦!

とし、さらに、「病氣見舞」(p144)では、

上原 一郎君、今日は。 一郎!您好!

一郎 毎日來ていただいて すみません。 每天都來、眞對不起。

としている。

また、久世宗一『學び易い北京語の本』（昭和 16 年 10 月 25 日初版永增書局刊）では、

王先生、少見少見/彼此彼此/您好、府上都好/托福都好 (p98)

と、“您好”が用いられている。しかし、この 2 つのテキストはいずれも北京で刊行され、前者は日本語教科書、後者は著者がさほど有名ではない點で、日本のテキストには影響を与えなかったと思われる。とはいえ、ここに、日本の

テキストには見られぬ“您好”の中國での浸透度が窺える。

そして、“你好”を採用する世界的に有力な2つのテキストの登場となる。

1944年刊 Hockett Charles F.・Fang Chaoying『Spoken Chinese』¹³⁾では、その Basic course・Units1-12に、

你好 How are you? (p7)

What would you say? (中略) You meet miss Miss. Wang and say:

王太太, 你好? (p9)

とあり、さらに、對話では、

Mr.Ross: 先生好?

Stranger: 好。你好?

Mr.Ross: 好。(p17) (引用者がローマ字表記を漢字に翻字した。)

と“你好”を採用した。

さらに、1947年刊 John de Francis『Beginning Chinese』¹⁴⁾、には、

Mr.Martin: 你好啊? How are you?

Mr.Wang: 好。你好? Well. How are you?

Mr.Martin: 很好。 I'm fine. (p13) (引用者が漢字に翻字した。)

とある。

この『Spoken Chinese』、『Beginning Chinese』、そして、趙元任『Mandarin Primer』(1949年刊)¹⁵⁾は、1945年以降の日本の中國語教育に、直接に影響を與えた。

その結果の一つとして、倉石武四郎『ラテン化新文字による中國語初級教本』(1953年6月20日第1刷 1953年9月15日第2刷 岩波書店刊)では、

c: お元氣? 你好?

a: 元氣よ、 好, (p8) (引用者がラテン化新文字表記を漢字に翻字した。)

と。また、

金子二郎『初級中國語讀本——中國語のはなし方——』上巻(1957年5月29日第1刷 江南書院刊)(2 你好啊?)では、

先生: 你好啊?

學生: 好。張先生, 您好?

先生：很好。（p21）

と、“你好”（“您好”）は、「你好？／好」という定式で、再び日本のテキストに登場した。しかもこの2著は、その内容とともに、その著者（東京大学教授倉石武四郎と大阪外国語大学教授金子二郎）により、当時の中国語教育に一定の影響をもつものであった。しかし、間もなく、日本の中国語教育を變えることとなるテキストが登場する。

III

北京大學外國留學生中國語文專修班編『漢語教科書（日本語版）』上冊（1960年3月北京初版 1960年3月第1次印刷時代出版社刊）が刊行され、その「口語練習」冒頭（p79）に、現在使われている挨拶の定式、即ち、「你好！／你好！」が登場する。その原文は、

(1) 你好！ ごきげんよう！

(2) 你好！ ごきげんよう！

である。

ここでは譯語「ごきげんよう！」が用いられているため、この譯語から受ける感じとして、中国語「你好！」自體が少し硬く感じられる。

そして、原テキストの『北京放送テキスト中国語講座課本』は筆者未見だが、陳文彬編・校閲香坂順一改編増補『初級—中級用／北京放送テキスト中国語講座課本』（昭和40年11月25日初版昭和47年1月10版光生館刊）冒頭（p1）では、

① 你好！ こんにちは！こんばんは！

と、譯語を變え、さらに、『漢語教科書（日本語版）』を引き繼ぐ、北京・商務印書館編東方書店出版部譯『基礎中国語』上卷（據1972年2月商務印書館出版中國國際書店發行1973年3月20日初版1973年6月10日第2刷版東方書店刊）では、

A (1) 你好！ こんにちは！

B (1) 你好！ こんにちは！ (p52)

と、譯語も形式とともに定式化した。

『漢語教科書（日本語版）』は北京で刊行されるや、同年11月には東京の光

生館から縮印刊行され、その内容と體系ゆえに、徐々にその後の中國語教育の標準になっていった。それゆえ、1960 年以降、日本のテキストは“你好”を採用するものが増加し、1965 年以降、“你好啊”は徐々に採用されなくなり、1970 年以降は、余り見られなくなっていった。

つまり、『漢語教科書（日本語版）』は、普通語とその教學體系を提示することで、日本の中國語教育の歴史にその時代を劃したが、その象徴的表現が、その冒頭に掲げられた“你好”であったのである。そして、普通話としての“你好”の登場とともに、庶民の挨拶語としての「喫飯了嗎」や「上哪兒去」などは舊い表現として日本のテキストに採用されなくなった。さらに、中國でも、改革開放政策後は、携帯電話の普及に顕著のように、人と人との接し方の變化に伴い、“你好”が使われる場面が増加し、これまでの庶民の挨拶語にも變化を與えはじめている。

(了)

注

- 1) 中國語の挨拶語について比較的コンパクトに解説をしているものに、大阪府通譯岩倉傳七編『支那語の葉』(大阪外國語學校支那研究會小冊(一))(昭和14年5月10日大阪實文館・實文館刊)がある。それによると、「支那に於ては「こんにち」は「今日はいくお天氣で御座います」等といふ挨拶の言葉を用ひず、専ら其の場合に適合した言葉を以て挨拶に代へるのであります。」と紹介し、「挨拶の言葉」として、「您好啊 御變りありませんか(親しい閒柄の者と會つた場合一般に用ふ)」、「您喫飯了嗎」、「您喫了飯了嗎」、「您忙不忙^(ママ)」、「您上那兒去」、「您上那里去」、「您早起来了」、「您起来了」などを擧げている。これらを挨拶語としてではなく、或いは、そう意識させることなく、採用しているテキストも多い。また、宮島吉敏・鐘ヶ江信光『四個星期中國語』(昭和6年9月5日昭和60年5月30日第3次改訂第196版大學書林刊)p66、相原茂『中國語Q & A101』(1987年5月1日初版1992年7月1日4版大修館書店刊)p.p.15-14にも説明がある。
- 2) 同書の自「序」(明治45年舊曆7月記)と宮越健太郎「序」によると、文楨は、字は輔廷、不翁と號し、北京英國公使館で中國語を教授、明治43年舊曆8月東京外國語學校に招聘されたとある。但し、引用者はその確認をしていない。
- 3) 引用者が據ったテキストは、刊年不詳、全99葉、半葉12行27字、奥付に「長縣崎」と誤植の有るもの。『官話指南』は、吳啓太・鄭永邦合著金國璞改訂『改訂官話指南』(明治36年5月3日初版文求堂刊)として版を重ね、通行している。その改訂部分は、初版第一卷「應對須知」のみで、該當部分には變更はない。なお、商務印書館1902年刊『官話指南』は原書第一卷第1葉の登場人物を替えている。

- 4) 廣部精『亞細亞言語集 支那官話之部』（明治12-13年青山清吉刊）に“您（你好啊）”は見えず、同書には「大人好」（問答十章之四）、「請老爺安／好啊」（問答十章之八）という言い方が見られる。原書 T・F・Wade『語言自邇集』（1867年刊）も同様で、原書第2版（1886年刊）、第3版（1903年刊）（ともに六角恆廣編『中國語教本類集成第3集』1993年4月30日不二出版刊所収に據る）もこの部分には變更がない。
- 5) 『急就篇』（昭和8年10月5日改訂）も引用部分は同文、『改訂急就篇 會話篇』（昭和47年4月1日5版）は文末に感嘆符を付す。
- 6) 東亞同文書院『華語萃編 初集』（大正5年7月10日初版大正10年3月30日4版東亞同文書院刊）（p3）も、同文を採用し、改訂を經てもこの部分に變更はなかった。
- 7) いずれも、國立國會圖書館支部東洋文庫所藏による。
- 8) 参考例としては、1898年刊 Goodrich『官話萃珍』「你納好哇」（158丁B）がある。
- 9) 時間は下るが、注音符號による教科書の李文誥・王杏生『國語新課本（一）』（民國36年7月初版開明書店刊）には、「好！／你好！」（p2）とある。
- 10) 例えば、明治39年北邊白血寫『燕京婦語』（鱒澤彰夫翻字解説1992年9月28日好文出版刊）では、「您好哇」と「你好哇」との相手に對する使い分けが明確である。
- 11) 一律に「您好」と譯しているのではなく、p54（雜貨屋で）では「客 今日。借光！ 店員 いらっしゃいませ。您來啦！」とする。
- 12) 場面設定は、隣家の文具店。
- 13) 引用者は WARDEPARTMENT EDUCATION MANUAL EM506 版に據る。
- 14) 引用者は伊地智善繼・大原信一共譯『Beginning Chinese 中國語初步』（昭和27年大阪外國語大學中研室内伊地智善繼油印刊）に據る。
- 15) “你（您）好”、“你（您）好啊”は、ともに使われていない。